

## 田中復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録

(令和元年10月5日(土) 15:50～15:55

於) 中間貯蔵施設中間貯蔵工事情報センター)

### 1. 発言要旨

今日は、大変好天でございまして、福島の特にこの双葉地方においても、好天の中で皆様に「ふたばワールド」にお越しいただきました。

私は、「ふたばワールド2019」に出席し、オープニング・セレモニーで祝辞を述べさせていただき、その後、展示ブースを回って、いろいろと説明を受けたり、また、自慢のものがいっぱい出ておりましたので、試食をさせていただいたところです。

本日の「ふたばワールド」を機に、皆様の絆が一層深まり、強まり、双葉地方の一日も早い復興・再生がなし遂げられることを期待し、私も復興大臣として精一杯の努力をさせていただきたいと思っております。

次に、東京電力の福島第一原子力発電所を訪ね、視察をし、廃炉・汚染水対策の取組についても確認したところです。

最後に、中間貯蔵施設では、受入・分別施設や土壌の貯蔵施設を視察し、確認もいたしました。

復興庁としても引き続き、廃炉・汚染水対策や中間貯蔵施設の作業が安全かつ確実、着実に進むよう、関係省庁と連携して取り組んでまいりたいと思っております。

今日は、私にとって非常に有意義な、また大切な日であったと思っております。

### 2. 質疑応答

(問) 就任後、初めて生で原発と中間貯蔵施設を見られたかと思うのですが、率直な御感想はいかがでしょう。

(答) 福島第一原子力発電所は、前にもお話ししましたように、事故の直後にも、野党でありましたけれど、環境常任委員会の筆頭理事の立場で視察し、特に、Jヴィレッジをはじめ、上からしっかりと被り物もいたしまして、実際に行って見ました。

中間貯蔵施設については、今日初めてでございました。この2つの施設を見ながら、特に原子力発電所については、汚染水のタンクをずっと拝見しましたけれど、本当に道半ばであると同時に、これからの作業が重要だとつくづく感じました。

また、中間貯蔵施設につきましても、大熊、双葉の両町長をはじめ、議会の皆様、あるいは町民の皆様方の御理解があってこそでございまして、受け入れていただいたことに心から感謝を申し上

げながら、早く福島県内の全ての汚染土壌がしっかりと管理される状況になりますことを、私たちも責任を持って進めていかなければならないと思っておるところでございます。

(問) 今の関連なのですけれども、以前訪れられたのは事故直後ということですが、そのときと比べて、今回の原発の視察で特に変わったと思われるところはどこかありますでしょうか。

(答) 事故が起きた直後は、常任委員会の野党筆頭理事だったということが1つあります。それから、政府与党になってからは、環境副大臣を務めまして、現場に来ております。そういうことで、原子力発電所の状況を見たときに、説明を受けると、もちろん随分いろいろとなされた措置等もありますけれども、はっきり言いまして、さっき言ったようにこれからだと、大きな仕事がまだまだたくさん残っているという感じでございます。

本当に、まだまだこれから、関係省庁、あるいは当然のことながら東電、あるいは地域の自治体の皆様とも協力させていただきながら、また、風評被害の話などは非常に深刻なことをごさいますして、そういうことも相まって、きちんと全てのことを、帰還困難地域も早く戻っていただけるようなことも含めてやっていかなければいけない。あれもこれもと思いながら、まだまだこれからだなどという意識を持ったほうが大きかったと思います。

(問) 関連ですけれども、それは先ほどもお話がありましたけれども、タンクをご覧になって、そこはどうでしょうか。

(答) 課題が多いということでございます。

(問) 最初に「ふたばワールド」で、Jヴィレッジをご覧になったと思うのですけれども、Jヴィレッジに関しての御感想もいただけますか。

(答) びっくりしました。私が最初に行ったときは、あそこが、原子力発電所の事故に対するスタッフの方たちが着替えたり作業をしたりする拠点になっておりました。あそこから20キロぐらいあるのでしょうかね。騒然としておりました。今思えば確かにここだったなと思いつつ、私は昨日泊まりましたので、あまりにも立派な施設になっているし、立派なホテルでございましたので、これは同じものであるかと思いつつ、感慨を深めたところでございます。

いずれにしましても、スポーツ施設ですから、今後多くの皆様に活用していただいて、復興の大きな一つのばねになればいいなと思いました。すばらしい施設になっておりまして、本当によかったなと思います。

ありがとうございました。

(以 上)